

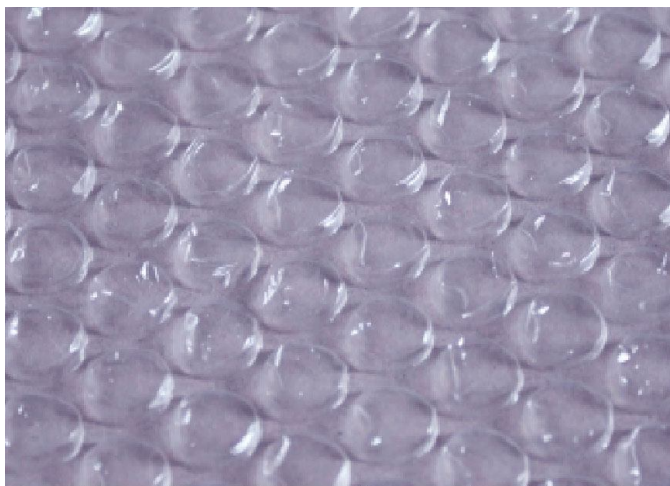
「プチプチつぶし」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

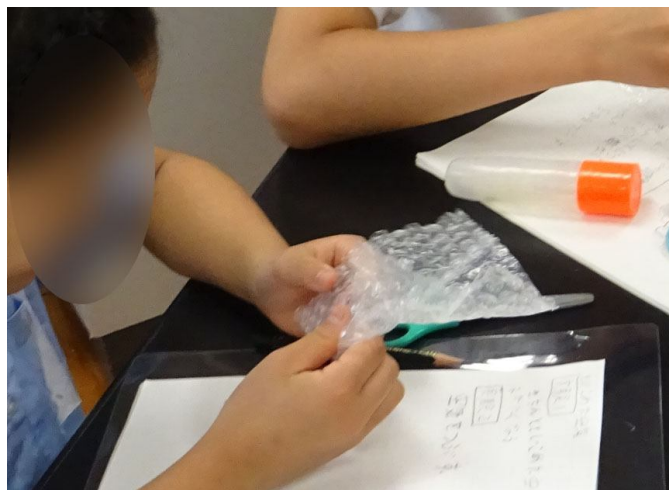
私が子どもの頃、小包が届くと、「プチプチちょうだい」と頼んだものである。「プチプチ」というのは、あの荷物を衝撃や傷から守る為の、緩衝材のシートのことである。



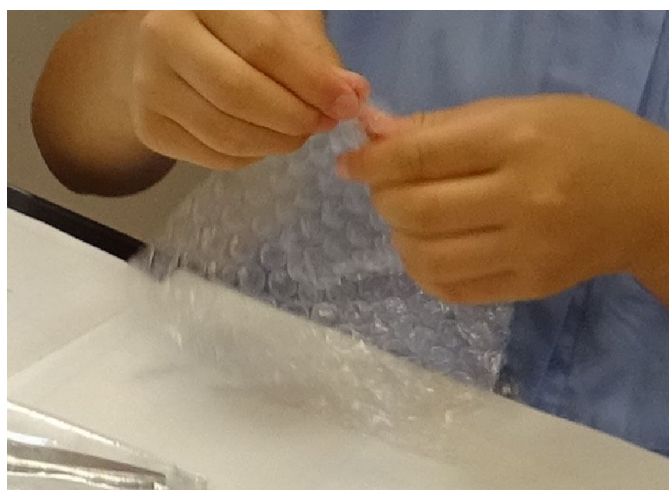
正式には「エアー・キャップ」というらしいが、昔も今も、日本人はこれを「プチプチ」と呼んでいる。子どもはこれが大好きで、空気の入った突起を、1個ずつ潰して遊ぶのだ。実に単純な遊びだが、どういうわけか面白い。なぜだろう？



先日、理科室に届いた荷物にこの「プチプチ」が大量に入っていた。子どもたちに見せると、「欲しい!」「ちょうだい!」「潰して遊びたい!」と大興奮。さっそく10cm四方程度に切って、一人ひとりに与えてみた。



「プチプチで遊ぶ」といっても、単に一個一個の突起を強く押して、中の空気を追い出すだけである。うまく潰せると「パチッ」と快い音ができる。



手当たりしだい潰しまくる子どももいれば、端から残さず根気よく潰す子どももいる。性格がよく現れていて面白い。教室のあちこちから「パチッ、パチッ」と音がして、まるで雨が降っているように聞こえる。一体これのどこが面白いのか？子どもたちのノートの記述にヒントがあった。

【子どものノートから】

「ひさしぶりにぷちぷちをつぶしました。こないだ、家のにもつについていたのに、おかあさんが音がうるさいからダメって言って、くれなかったからです。音がおもしろいのにと思いました。今日は100こぐらいつぶせて満足でした」

「つぶれたしゅん間、ちょっと固くなっていたプチプチがパチンとわけて、空気が出ていくのがおもしろいです。親指の先が気持ちいいです」

「ぷちぷちにとじこめられている空気は、すごくちよつとなので、音も小さいのだと思います」